

ASSOCIATION OF
MUSICAL ELECTRONICS INDUSTRY

AMEI

1999年11月20日発行

Vol.11

「デジタルミュージックフェア'99 MIDI WORLD 99-」 大盛況に開催!!



「デジタルミュージックフェア'99 -MIDI WORLD 99-」(本年より名称変更)が東京ビッグサイト西ホールにて、社団法人音楽電子事業協会と日本経済新聞社の共催にて平成11年7月30・31日・8月1日(金土日)の3日間開催された。天候にも恵まれ晴天が続き、話題に富んだセミナーや素晴らしいコンサート等のイベントも数多く実施され、7月30日 26,879名 7月31日 43,109名 8月1日 41,065名 合計 111,053名(同時開催:「ばそまる99」と共通)入場者で賑わった。(昨年の「MIDI WORLD 98」の入場者は53,216名)

CONTENTS

- デジタルミュージックフェア 2・3・4
- シンポジウム 5
- MIDI 検定実施要領 6
- 2級検定、NAMMツアー案内 7
- MIDI/1394 8・9
- 容器包装リサイクル法 10
- 委員長インタビュー 11
- AMEI会員名簿、MIDI規格書 12

AMEI NEWS Vol.11 / 1999.11.20

社団法人音楽電子事業協会 機関誌

発行: 社団法人音楽電子事業協会 事務局

〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-16-9

イトービル4F

TEL. 03-5226-8550 FAX. 03-5226-8549

発行人: 中田 健

編集人: 福田 誠(広報委員会)

編集協力: 株式会社 ラプラス

ホームページアドレス: <http://www.amei.or.jp/>

社団法人音楽電子事業協会

デジタルミュージック・フェア ～MIDI WORLD 99～

【デジタルミュージック・フェア開催概要】

名 称：デジタルミュージック・フェア（サブタイトル：MIDI WORLD'99）
会 期：1999年7月30日（金）～8月1日（日） 午前10時～午後5時
会 場：東京国際展示場（東京ビッグサイト）西ホール（東京都江東区有明3-21-1）
主 催：社団法人 音楽電子事業協会、日本経済新聞社
後 援：通商産業省、文化庁
同時開催：家族ではじめるパーソナル・マルチメディア「ばそまる'99」（主催：日本経済新聞社）

【出展社】 26社・団体（五十音順）

アイズ	スタインバーグ・ジャパン
アップルコンピュータ	第一興商
インターネット	テレミディック
オービット・ミューズテクス事業部	日本工学院専門学校／日本工学院八王子専門学校
音楽電子事業協会	日本シンセサイザー・プログラマー協会
カシオ計算機	日本電子専門学校
カメオインタラクティブ	フックアップ
河合楽器製作所	松下電器産業
キュービックエナジー	ミュレイディア
クリプトン・フューチャー・メディア	ヤマハ
コルグ	ヤマハミュージックメディア
島村楽器	リットーミュージック
シーミュージック	ローランド

【オンラインイベント「Virtual MIDI WORLD」】

インターネット上にMIDIを話題としたホームページを開設。デジタルミュージック・フェアを補完するものとして、来場動員／開催報告を行なうほか、独自のコンテンツを展開し話題作りを図った。

開設期間： 1999年6月1日（火）～8月31日（火）

コンテンツ：出展社紹介	イベント参加社による情報提供スペースを運営。
リレーコラム	ミュージシャンやプログラマーによるコラムを連載。
DTMセミナー	初心者向けのオンラインセミナーを開催。
おしゃべりBBS	全国のDTMファンが集まる掲示板を運営。
あなた一票！	アンケートに答えた来場者に抽選でプレゼントを提供。

【展示企画】

今年は同時開催の展示会「ばそまる'99」と同フロアであったため、エントリーモデルのDTMソフトや電子ピアノなどが多く展示されていた。電子楽器ユーザー層を拡大させるためにも良い傾向であった。
下記の3コーナーを特設し来場者にアピールした。

○ソフトマーケット

デジタルミュージックソフトの即売コーナー。（参加：アイズ、キュービックエナジー、クリプトン・フューチャー・メディア、ミュレイディア、リットーミュージック）

○MUSIC SCHOOL CORNER

専門学校コーナー。各出展者とも次期生徒の募集を兼ねたプロモーションを展開。（参加：日本工学院専門学校／日本工学院八王子専門学校、日本シンセサイザー・プログラマー協会、学校法人電子学園 日本電子専門学校）

○AMEIコーナー

AMEI刊行の著作物（CD-ROM「マルチメディアテキスト音楽・音響編'99」、「MIDI1.0規格書」、「MIDI検定3級公式ガイドブック」、「これで解った デジタルオーディオ」などの販売を行なった。また、MIDI規格委員会による「IEEE1394を用いたMIDIとオーディオデータの転送デモ」が行われた。

【セミナー】

デジタルミュージックに関するセミナーを開催。特にMIDI検定に関するセミナーは受講者も多く、MIDI検定が与えるユーザーへのインパクトの大きさを物語っていた。またIEEE1394に関するテクニカルセミナーでは、関連部品メーカーなどの参加者が多く、これからの製品展開に対する意気込みが感じられるものだった

○松武秀樹「デジタル・ミュージックの世界」～アナログ・サウンド・メイキングに学ぶ～

日時：7月30日（金）13:00-14:30 参加料：3,500円（事前申し込み3,000円）

講師：松武秀樹（シンセサイザー・プログラマー・アーティスト）

○「IEEE1394の音楽機器への展開」

～（社）音楽電子事業協会（AMEI）における電子楽器向けプロトコルの最新動向～

日時：7月30日（金）15:15-16:30 参加料：3,000円

講師：（社）音楽電子事業協会MIDI規格委員会

ミュージックプロトコルワーキンググループ（MPWG）メンバー

○「MIDI検定ガイダンス」 MIDI検定の概要説明

日時：7月30日（金）11:00-12:00 参加無料

主催：（社）音楽電子事業協会 MIDI認定制度委員会

講師：大浜和史（日本シンセサイザー・プログラマー協会 [JSPA]）

○「MIDI検定3級セミナー」 3級検定試験要点（基礎編）

日時：7月31日（土）11:00-12:00 参加無料

講師：國友孝純（日本シンセサイザー・プログラマー協会 [JSPA]）

○「MIDI検定上級セミナー」 MIDI検定上級試験へのガイダンス

日時：7月31日（土）15:00-16:00 参加無料

講師：大浜和史、上杉尚史（日本シンセサイザー・プログラマー協会 [JSPA]）

○「MIDI DATA CLINIC」公開クリニック

日時：7月31日（土）13:00-14:30 参加無料

クリニック：氏家克典、篠田元一（日本シンセサイザー・プログラマー協会 [JSPA]）

【ワークショップ】

会場：ワークショップルーム

デジタルミュージック・フェア出展社によるワークショップ。島村楽器によるiMacソリューションの展示とセミナーは、今までにないクラシック関連の人々に向けた内容も盛り込み、新しい層へのアピールに成功した。

7月30日（金）13:00～コルグ「コルグサマーセッション」

15:00～アイズ「CAMPSレビュー1999」

7月31日（土）11:00～アイズ「CAMPSレビュー1999」

13:00～ヤマハ「米谷知己XGプロフェッショナルセミナー」

15:00～クリプトン・フューチャー・メディア「サンプリングCD活用講座」

8月1日（日）13:00～インターネット「DTMセミナー～DTM楽園公開レッスン」

カメオインタラクティブ「Creamware" PULSAR/SCOPE" セミナー」

15:00～ヤマハ「松武秀樹バーチャルアナログシンセサイズセミナー」

スタインバーグ・ジャパン「Cubase VSTセミナー」

毎日開催 島村楽器「クラシック奏者のためのMus i Mac講座」

「デジタル世代のためのM i d i Mac講座」

「音楽的コンピューターHarmony活用術」

【メインステージ】

会場：アトリウム内メインステージ

同時開催の展示会「ばそまる'99」と共同ステージを設置、3日間にわたってイベントを展開した。デジタルミュージック・フェアでは、希望出展社によるステージの集合体で構成、演奏を主にしたプレゼンテーションが多数披露され、観客の拍手をさらっていた。

○7月30日（金）

13:10～アップルコンピュータ Presents「iMacって楽しい！」

15:10～河合楽器製作所 Presents「カワイ デジタルピアノ デモ」

出演：村井悦子（カワイ楽器インストラクター）

16:20～ヤマハ Presents「エレクトーン EL900 コンサート」

出演：上野みゆき（エレクトーン デモンストラーター）

○7月31日（土）

11:50～日本工学院八王子専門学校 Presents「日本工学院 MID. RIDERSE」

15:10～Roland Organ "MUSIC ATELIER" Presents

「～色とりどりのサウンドで彩るオルガン・コンサート～」 出演：熊埜御堂 可奈子

16:20～日本電子専門学校 Presents「日本電子専門学校JECライブ」

出演：本校学生&卒業生

○8月1日（日）

11:50～河合楽器製作所 Presents「カワイ デジタルピアノ デモ」

出演：村井悦子（カワイ楽器インストラクター）

15:10～アイズ Presents「サンプリングCDでPON！」

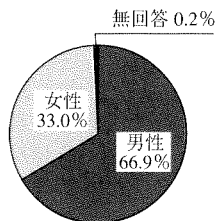
出演：Kaeru Sister's（白石ひとみ、堀川早苗）、DJ Loop X

16:20～ヤマハ Presents「向谷実DTMワークショップ～音楽やるならXG～」

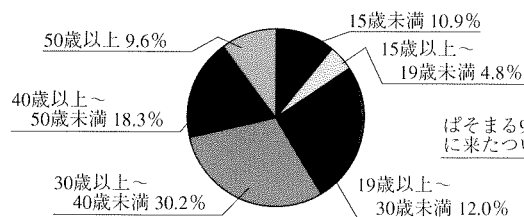
出演：向谷実、神保彰（カシオペア）

【MIDI WORLD 来場者アンケート】

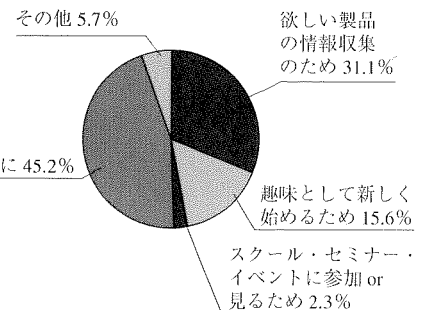
Q 1 性別



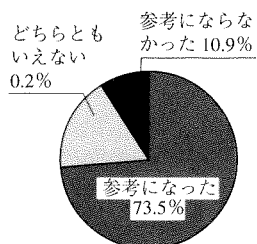
Q 2 年齢



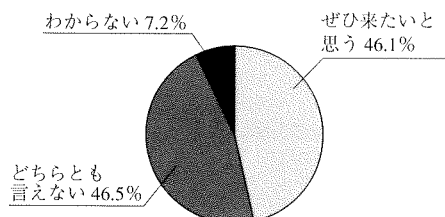
Q 3 来場理由



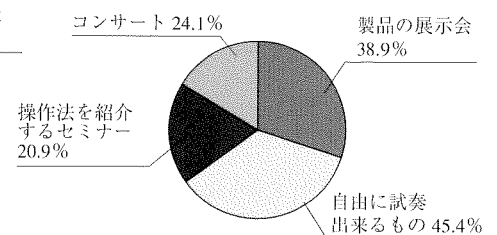
Q 4 参考程度



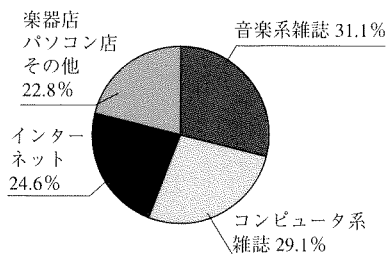
Q 5 来年度来場意向



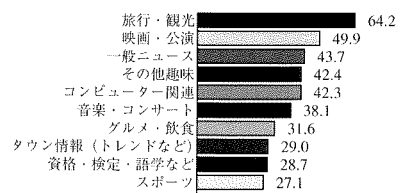
Q 6 希望するイベント



Q 7 デジタル音楽の情報源

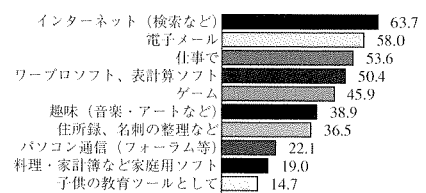


Q 8 パソコンを使って知りたい情報 TOP 10



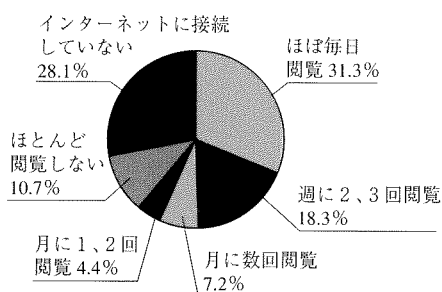
（ばそまる入場者アンケート）

Q9 パソコンの活用方法 TOP 10



（ばそまる入場者アンケート）

Q10 ホームページの閲覧状況



（ばそまる入場者アンケート）

シンポジウム 「21世紀のネットワーク 社会と著作権問題」 の開催報告— (著作権法 制定100年記念・協賛事業)

著作権法制定100年を迎え、21世紀を見据え、特にインターネット時代を迎え音楽流通に関わる様々なセクションの人々やアーティスト、法律関係者又、ユーザーなど多岐な視点を踏まえながら、インターネットは時代における著作権のあり方について問題提議し、今後の音楽流通のあるべき姿を考えるシンポジウムを開催した。

- ・主催 社団法人音楽電子事業協会
- ・共催 日本経済新聞社
- ・日時 平成11年10月4日
- ・場所 東京国際フォーラム Dホール
- ・聴講者数 約240名

概要

第1部 セミナー (10~12) 「インターネットにおける著作権処理の実施講座」 (音楽編 写真画像編 動画編 文芸ニュース編)



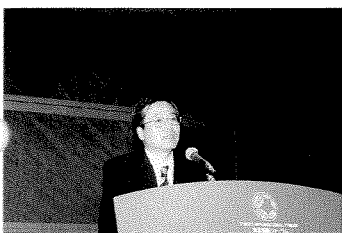
- 講師 飯島澄雄氏 (弁護士)
野方英樹氏 (日本音楽著作権協会送信部ネットワーク課長)
佐々木隆一氏 (社団法人音楽電子事業協会 著作権委員会委員長)

第2部・対談 (1~2) 「21世紀のアーティストとネットワーク社会での創作活動」



- 坂本龍一氏 (音楽家、写真右)
村上龍氏 (作家、写真左)

・講演 (2.15~3.15) 「21世紀の著作権法」



- 講師 作花文雄氏 (横浜国大 助教授)
○ 著作権制度100年の歴史の軌跡と残された課題
○ 技術の発達へのキャッチアップ
○ 著作権南北問題と新しい国際的枠組の確立
○ 新しい時代に求められるもの

第3部 パネルディスカッション (3.30~5.30) 「音楽流通革命の課題と未来」

—ネットワーク音楽配信とシリコンオーディオ機器—



- パネラー 瓜生宏司 (日本レコード協会 システム開発室長)
高堂学 (株ソニーミュージックエンターテイメント 企画推進部長)
鈴木孝夫 (三洋テクノ・サウンド株 社長室長)
田中義雄 (株JEUGIA 代表取締役社長)
コーディネーター 村井清二 (株カメオインタラクティブ 代表取締役副社長)

話題のMP3には、他のデジタル媒体と同様、著作物の無許諾コピー配布行為による著作権侵害の問題が存在します。現在、MP3がたいへんな注目を浴びているのは、技術性能面だけでなく、それら海賊行為が目につく状況となっていることも要因のひとつです。MP3は、パソコンやインターネットを使って、短時間でかつ大量の音楽データを複製・配布出来るため、その被害規模が予測できず、既存の音楽レコード会社にとって大きな脅威となっています。最近ではパソコンやインターネットと接続して利用するMP3携帯再生機器が登場したことで、現行の法律や技術では対処仕切れない問題も発生します。そのため、著作権法そのものの改正や違法コピー抑止のための暗号処理や著作権管理システムなど様々な方策が講じられています。その意味では、今やデジタル著作権や著作権ビジネス全般の新しい在り方を問う前向きな課題ともなっているのです。

第2回 MIDI 検定試験 3 級の実施要綱 決る

= MIDIを理解し活用できる人材育成のための認定制度 =
= コンピュータミュージックの共通ライセンス =

- 音楽情報を効率よく伝達するための規格「MIDI (Musical Instrument Digital Interface) 規格」を理解し活用できる人材育成を目的として、日本シンセサイザー・プログラマー協会の協力を得、「第2回MIDI検定試験 (3 級)」を「平成12年1月23日 (日) 午後1時30分より (90分)」、全国 (札幌、仙台、東京、名古屋、金沢、大阪、京都、福岡、広島 他) 約70会場にて実施致します。
- 発展を続けるマルチメディア社会の中で、文字や映像などと並び、重要な要素の一つに音/音楽があげられます。そしてマルチメディアの音/音楽の中で中心的役割を果たしているのが、いわゆるMIDI規格です。MIDI規格は、電子楽器の制御プロトコルとしての活用はもとより、電子音楽のソフトウェア、コンピュータネットワークでやりとりされる音楽データや、通信カラオケの送信データにいたるまで、電子音楽の事実上の標準規格となっています。
この様な状況のなか、MIDIを使った音楽制作の現場では、MIDIに関する知識を持ち、データの制作・監修ができる人材が求められています。

【第2回MIDI検定試験 3 級】実施予定】

名 称：平成11年度「第2回MIDI検定」試験 (3 級)

主 催：社団法人音楽電子事業協会

協力企業：音楽電子事業協会 会員各社

協力団体：日本シンセサイザー・プログラマー協会

実 施 日：平成12年1月23日午後1時30分より (90分間)

協 力 校：

(札幌地区)

札幌科学技術学園・札幌科学技術専門学校

(仙台地区)

菅原学園・専門学校デジタルアーツ仙台、東北電子計算機専門学校

(東京・横浜地区)

アイデックスミュージックアカデミー、音響技術専門学校、神奈川情報文化専門学校、シリコンハリウッド 学園

菅原学園日本情報ビジネス専門学校、総合学園ヒューマン・アカデミー東京校、東京工科大学、東京工業専門学校

東京コミュニケーションアート専門学校、東京ミュージック & メディアアーツ尚美、日本工学院専門学校、日本工学院八王子専門学校

日本電子専門学校、パンスクールオブミュージック、ミュージック・カレッジ・メーカーハウス、ヤマハ音楽院

代々木アニメーション学院、島村楽器店 (株) 平井本店

(名古屋・大垣地区)

大垣女子短期大学、名古屋音楽大学、名古屋自由学院短期大学

(金沢地区)

金沢科学技術学園・金沢科学技術専門学校

(大阪・京都地区)

キャットミュージックカレッジ専門学校、J E U G I A 三条本店 6 F 「J・SQUARE」、

ディブス/コンピューターミュージッククラブDEE、職業訓練法人 大阪ヒューマンアカデミー、

(広島地区)

島村楽器 (株) 広島パルコ店、

(福岡地区)

専門学校九州ビジュアルアーツ

【3 級試験実施概要】

●受験料

3級 2,500円 (消費税含み)

●試験方法

筆記試験 (所用時間1時間30分)

●合格基準

100点満点のうち80点以上 (問題数100問)

●結果通知

・平成12年2月10日、AMEI ホームページにて発表

・合格者には「3 級合格証 (MIDI LICENSE) カード」が贈られます。

●試験内容：

<3級> MIDI規格1.0に準拠 スタンダードMIDIファイル実用レベル

- 1、「MIDIの基礎」 楽情報の伝達、バイトとビット、MIDIケーブルの接続
- 2、「MIDIメッセージ」 MIDIチャンネル、ステータスとデータ、メッセージの種類
- 3、「ノートデータ」 ノートオンオフ、ベロシティ、ゲートタイム、タイミング
- 4、「コントロール」 音色の切り替え、ピッチベンド、コントロールチェンジ
- 4、「システムメッセージ」 システム & メーカー・エクステンション
- 5、「MIDIの知識」 MIDIの歴史、アナログシンセの基礎、GM & SMF

【3 級試験応募要領】

●第2回平成11年度 (12年1月23日実施) MIDI 検定試験 3 級

応募受付期間 平成11年10月12日 (火) より平成11年11月30日 (火) まで (消印有効)

●受験案内をお取り寄せの上、受験案内綴じ込みの「受験願書、兼受験料振込用紙」にご記入の上、受験料をお振込み下さい (お振込み後のキャンセルには受験料の払戻しはいたしません)

●受験案内は「協力校」「有名楽器店」及び「AMEI 会員会社」或は、直接「社団法人 音楽電子事業協会 MIDI 検定試験事務局」にお申込み下さい。

(東京都千代田区三崎町2-16-9 TEL: 03-5226-8550)

(E-MAIL: webmaster@amei.or.jp)

【2級検定試験予定（2000年より実施）】

- 受験資格：3級合格者
- 受験実施予定：1次 平成12年5月（筆記試験）全国一斉協力校
2次 平成12年7月（実技試験・会場は東京大阪）
（2次受験資格者は1次合格者のみ）
（MIDIデータ入力及び編集技能の実技試験）
- 試験概要は平成12年3月に「AMEIホームページ」他にて告知
URL（http://www.amei.or.jp）
- 応募時期予定：受験案内配布 平成12年3月以降
応募受付時期 平成12年4月
- ガイドブック発刊予定 平成12年2月予定

【MIDI検定3級公式ガイドブック＆第1回試験問題と解説書】

- ・申込み方法 「協力校」「有名楽器店」「AMEI会員会社」
又は直接「社団法人音楽電子事業協会 検定試験事務局」へ
（TEL：03-5226-8550 又はE-Mail webmaster@amei.or.jp）
- ・価格 3級公式ガイドブック 定価 ￥1,500（税別）
第1回試験問題と解説書 定価 ￥600（税別）

第4回 AMEI MIDI 規格委員会主催

NAMM International Music Market 2000ビジネスツアー募集

MIDI規格委員会では、今年もNAMMビジネスツアーの参加者募集を下記の通り実施いたします。このビジネスツアーでは、日頃委員会活動において、米国MMA（MIDI Manufacturers Association）との意見の交換を電子メール等により行っているが、MMA総会も開催され多くのMMAメンバーも一同に会するこのNAMM期間中にFace to FaceによるAMEI/MMA会合を開催する

ことを目的としている。

この会合に参加されない会員には、NAMMショー（昨年度出展社1,202社、入場者数は、61,407人）の視察また全日自由行動となっているので、現地での商談などに、このツアーの利用をお勧めいたします。

催行期間： 2000年 2月2日(水)～2000年 2月8日(火) 5泊7日
旅行費用： 179,000円
利用ホテル： ロサンゼルス：インターコンチネンタルLA（NAMM会場まで約3Km）
二人部屋、会場へはシャトルバス（無料）がご利用になれます
一人部屋追加料金： 69,000円

最少催行人員： 15名

申込締切： 1999年12月中旬

その他の都市、期間の延長などのアレンジも可能です。ご相談ください。

日	月日(曜)	地名	現地時間	交通機関	予 定	食事
1	2月2日(水)	東京(成田)発 ロサンゼルス着	夕刻 午前	専用バス	ホテルへ <インターコンチネンタルLA泊>	夕：機内 昼：× 夕：×
2	2月3日(木)	ロサンゼルス滞在			AMEI/MMA Unofficial-Meeting (NAMM初日) <インターコンチネンタルLA泊>	朝：○ 昼：× 夕：×
3	2月4日(金)	ロサンゼルス滞在			(NAMM) <インターコンチネンタルLA泊>	朝：○ 昼：× 夕：×
4	2月5日(土)	ロサンゼルス滞在			AMEI/MMA Official-Meeting (NAMM) <インターコンチネンタルLA泊>	朝：○ 昼：× 夕：×
5	2月6日(日)	ロサンゼルス滞在			MMA総会参加 (NAMM最終日) <インターコンチネンタルLA泊>	朝：○ 昼：× 夕：×
6	2月7日(月)	ロサンゼルス空港へ ロサンゼルス発	午前 午前	専用バス	空港へ <機中泊>	朝：○ 昼：× 機内
7	2月8日(火)	東京(成田)着	夕刻		到着後、解散	機内

ご注意：発着時間、交通機関等は変更になることがあります。

費用に含まれないもの

- (1) 個人的性格の諸費用（電話代、クリーニング代、飲物費等）
- (2) 渡航手続き諸費用（新規旅券申請のための旅券印紙代、新規旅券申請書類代行作成費用等）
- (3) 超過手荷物運搬料金
- (4) 現地宿泊ホテル～NAMM会場間の交通費
- (5) 日程表記載以外の国内移動費用
- (6) 現地オプションツアー代金（別途料金の小旅行）
- (7) ホテルシングルルーム利用の場合の追加代金（@69,000円）
- (8) 航空機ビジネスクラス利用の場合の追加料金（@別途ご連絡いたします）
- (9) 任意の海外旅行傷害保険（個々のお客様から依頼のある海外旅行個人任意保険）
- (10) NAMM入場券

旅行企画：(社)音楽電子事業協会MIDI規格委員会
旅行主催：株式会社日本交通公社

お申込みは：社団法人音楽電子事業協会事務局まで
TEL:03-5226-8550 FAX:03-5226-8549
E-mail:webmaster@amei.or.jp

IEEE1394デモブース

社団法人音楽電子事業協会MIDI規格委員会ミュージックプロトコルワーキンググループ(MPWG)のブースでは、昨年に引き続き、IEEE1394を用いた次世代のMIDI+オーディオのシステムの実験デモンストレーションが行われ、注目を集めていた。



↑主催者(社)音楽電子事業協会のIEEE1394デモブース。
IEEE1394を使ったMIDIとオーディオの伝送をアピールしていた。



↑古山俊一氏によるIEEE1394デモを見学する大勢の人々。
ユーザーの期待度の高さを表している。



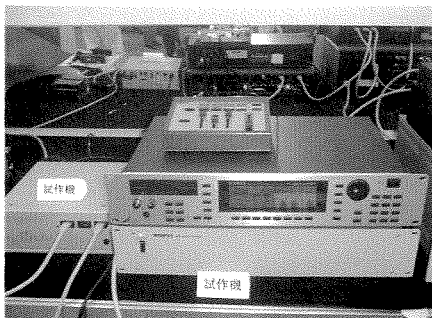
←古山俊一氏が各社の試作品を実際に操作しながら、
IEEE1394の特長をわかりやすく解説していた。

理、試聴、トラックダウンなどの工程を、古山俊一氏による小気味よい進行で、順を追って、くわしく解説していた。試作機の中には、現行のMIDI機器や、アナログ機器をそのままの形でこの1394システムに組み入れて使うことを可能にする「ゲートウェイ」と呼ばれる機器も含まれており、従来機器との接続性や、親和性についても問題がないことを示していた。

出展された各種機材：



IEEE1394インターフェイスを装備した、コルグTR Rack、ローランドJV2080、ティアックDA98の試作品。リアパネルのIEEE1394端子を壁のミラーに写して展示。



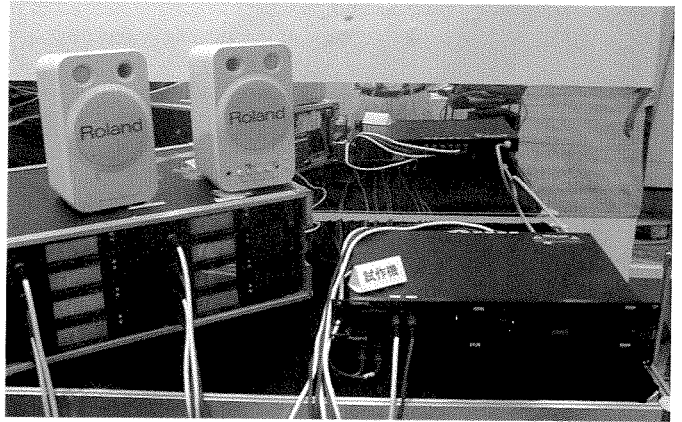
IEEE1394インターフェイスを装備したカワイK5000Rの試作品と、従来の電子楽器をIEEE1394に接続するためのゲートウェイの試作品(ティアック、ヤマハ)



IEEE1394インターフェイスを装備した、ヤマハO3Dの試作品



ローランドが試作した、IEEE1394でダイレクト接続できるモニタースピーカ。(写真は背面)



ローランドが試作した、8本のMIDIケーブルをIEEE1394に多重化する装置。

セミナー「IEEE1394の音楽機器への展開」



←フェア初日に開催されたIEEE1394技術セミナー。壇上には、IEEE1394の試作品を出展したヤマハ、ローランド、コルグ、カワイ、ティアックの技術者が並び、メーカー間の垣根を越え、AMEIの基での協力が行われていることをアピールしていた。

一方、デモを担当した同MPWGは、別室にて、このIEEE1394に関する技術セミナーも開催していた。有料のセミナーにも関わらず、こちらも多数の受講者を集めていた。受講者の中には、レコーディングや楽器の愛好者のほか、設備機器メーカーや電子部品などの関連メーカーからの参加者も見受けられ、デモでは紹介されなかった、技術的な内容についての解説に耳を傾けていた。実際に試作機

の製作に携わった各メーカーの技術者も壇上に顔をそろえ、各々、この技術の可能性や利便性、市場性などについて、レコーディングスタジオ、音楽教室、コンサート機材、家庭向けピアノなどへの具体的な応用の例を挙げ、コメントを述べていた。同協会では、電子楽器業界に止まらず、ひろく、その他の電子機器の業界とも連携しながら世界規模での規格策定に、積極的に取り組んでいる。一例として、IEEE1394の国際規模の主幹団体であるIEEE1394トレードアソシエーションにも、随時、メンバーを派遣し、音楽関連分野への応用を推進する立場から、多数の提案を行ってきていることなどについても紹介されていた。

IEEE1394とは？

IEEE1394とは、高速のホームネットワークの世界規格のひとつであり、民生機器の業界や、コンピュータ関連の業界などが、多数、参画して標準化を進めている、国際規格である。リアルタイムで動画や音声と同時に何本もやりとりできる高速さと、ケーブル接続を非常に単純化できる点が各方面で高く評価され、次世代のネットワークの担い手の最有力候補として、熱い期待が寄せられている。すでに、一部では、普及がはじまっており、デジタルビデオカメラなどでは、“DV端子”あるいは、“i-LINK端子”として知られている。コンピュータ関係では、G3マッキントッシュが“Firewire”の呼称で、IEEE1394の標準搭載を開始しており、一方のWindows陣営でも、Windows98 2nd editionを皮切りに、そのサポート強化するとしている。

容器包装リサイクル法

容器包装リサイクル法の平成12年4月からの完全施行について ハードウェア委員会 環境問題研究部会からの報告

一般家庭から排出される廃棄物（いわゆるゴミ）の再資源化をめざし、容器包装リサイクル法(正式名称一容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進に関する法律)が、平成9年4月にスタートしたことは、既に皆様ご承知のことと思います。

この法律では使用済み容器包装を、消費者には分別排出、市町村には分別収集・保管、事業者には自ら又は指定法人に委託して再商品化（リサイクル）する義務が課せられています。

法律のスタート当初はガラスびんとPETボトルが事業者の再商品化義務対象でしたが、平成12年4月からは新たに紙製及びプラスチック製の容器包装が、事業者の再商品化義務対象になります。（段ボールも法律では対象ですが、事業者の再商品化義務対象外となっています。）

ここでの事業者とは、容器包装を利用して中身の製品を製造・販売する事業者を指し、輸入事業者も含まれ、事業者の義務としては帳簿を備え、以下の内容を記載し保管しなくてはなりません。例えば、容器包装利用事業者としては、

1. 再商品化義務量
2. 前年度の販売した商品に用いた容器包装の量
3. 輸出される商品に係る容器包装の種類及びその輸出先
4. 再商品化を委託締結する場合は契約内容

等が必要となります。

尚、各事業者の法律遵守確認の為、行政による立入検査も実施されます。

このような流れに対応すべく、当環境問題研究部会では平成10年度より部会での情報交換を行うと共に、外部より専門の講師を迎え勉強会を実施し、法律の内容の理解と実務における対応について勉強してきました。今年度も官報公示にて、政省令の改正等が行われており、部会にて情報交換を行っています。

10月現在、平成12年度の指定法人における再商品化の委託単価は未決定ですが、各業種における再商品化義務量は9月末までにほぼ決定しています。この数値により各事業者における再商品化義務量が計算できます。

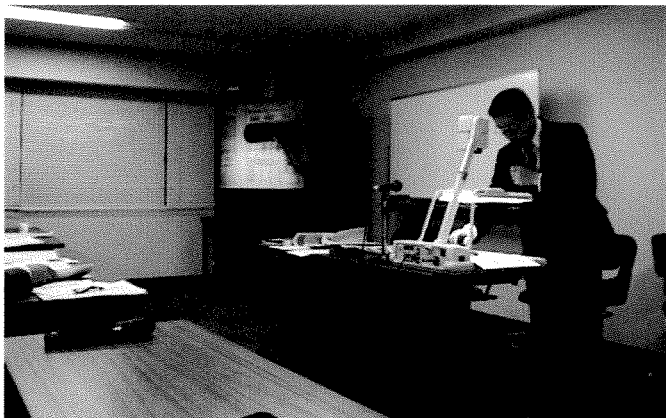
当環境問題研究部会に参画されている会社のみならず、当協会会員のほとんどの会社がこの法律の対象となると思われますので、平成12年4月の法律の完全施行に向け準備が必要です。

今後の課題としては、消費者や市町村等から容器包装について、法律の対象であるとの識別表示やより詳細な材質の表示についての情報提供に関する要望が多くあり、現在通産省において検討会を発足させ、内容の検討がなされております。審議の結果によっては、新たな義務が生じる可能性もありますので、今後の動向に十分注意して対応する必要があります。

尚、容器包装リサイクル法に関するお問合せは事務局を通して受け付けています。

（ハードウェア委員会環境問題研究部会部会長 八木 茂良）

環境問題研究部会にて開催した容器包装リサイクル法勉強会
講師は日本容器包装リサイクル法協会理事 土居敬和氏



平成11年4月6日 日本電子出版会議室（東京）にて



平成11年9月8日 アクトシティ浜松にて

Q1: DR (デジタルレコーディング) 委員会の主な活動内容をお聞かせ頂けますか。

A1: DR 委員会は3つのWG (ワーキンググループ) に分かれて活動しております。各WG毎のテーマに対してWGメンバーがリーダーシップをとり、委員会メンバー全体が参加して討議を行うという形式を取っています。現在は、昨年度の活動の延長である「デジタルレコーディングに関する実用上の知識の普及と啓蒙」がメインテーマです。例えば、デジタルレコーディング機器使用時に突発的な問題に遭遇した場合にも、ユーザーが自分で自信を持って解決できるような知識情報の提供を積極的に実施することで、デジタル機器に慣れてもらい、結果として業界発展の一助になればとの考えです。また、この様な活動を行うことで、委員会メンバー自身の知識の向上を図ることができ、関連業界で要となる人材の育成にも貢献できればと考えています。そして、どのメーカーの製品との組み合わせにおいても、良好なインターフェイスが確保できるような環境づくりを目指しています。

Q2: DR 委員会として特に取り組んでいるテーマはありますか。

A2: 本年度のWGは、「DR INET WG」、「DR COMPATIBLE WG」、「DR SCRIPTURES WG」という3つのテーマに分かれて活動しています。これらは各々が全く独立した動きをするのではなく、各WGの活動が互いに連携してDR 委員会のメインテーマに取り組んでいるわけです。DR INET WGでは、AMEIホームページの中のDR 委員会のページ (以下DR INETホームページ) の具体的運用についての提案と、常に掲載内容が更新されることで内容の有効性と共に魅力のあるページとしてのイメージ付けを行って活性化を目指しています。DR COMPATIBLE WGではデジタルオーディオ機器を中心としたシステムを使用する場合の様々なセオリーや具体的な接続例および禁則例等を盛り込んだセットアップメソッド資料の作成と、これらをDR INETホームページに掲載するための促進活動を行っています。各社固有の機器との組み合わせによる動作検証を行い、これらの情報を元にセットアップメソッド等の資料を作成しAMEI DR委員会のホームページに掲載し公開して行くことにしています。DR SCRIPTURES WGはつまり、デジタルレコーディング機器運用に関するバイブル的な役割を持つハンドブックの確立を目指しています。前回発行した「DRハンドブック」を起点として、絶えず発展するデジタル技術に対応する必要があるため、これらを踏まえて将来的に改訂版を発行できるように準備を進めています。

Q3: ユーザー向けのホームページをDR 委員会として開設しておられるようですが、反響はいかがですか。

A3: 先ほど申し上げたDR INETホームページのことですね。現在は一方通行のページですので、問い合わせのメールなどが返ってくるようにはしてないため、実際の反響についてはなかなか捉えにくい状況です。最近インターネットのホームページは非常に増えており、我々のDR INETホームページをユーザーを含めた関係者に認知してもらい以前の問題として、本体のAMEIホームページそのものの存在を広く知らせることが、大きな課題だと思っています。ホームページを設定する場合には、まず如何にして興味を持ってアクセスしてもらえるか、どのように運用を行うことが第一かなど、アクセスする側の立場での考え方と、反面この様なことを告知したいと思う考え方がありますが、実際に掲載する側の立場を優先しても、興味がなければ全く見てもらえません。この点についての悩みはDR INETホームページについても同様です。しかし、DR INETホームページの基本テーマとしては、デジタルレコーディングに関する実用上の問題点を解決するための情報が常に得られる (供給する) ページとして、運用していく予定です。委員会メンバーの活動時間は限られており、ホームページのメンテナンスのための費用もままならないもの

があります。しかし、1枚だけの紙芝居みたいにも何時間も同じ画面が掲載されていく状況が続いた場合、直ぐに飽きられてしまうホームページの魅力もなくなり、見る者にとっではメリットがないので一度とアクセスしてもらえない危険性を備えています。これらの問題を克服しようというDR



浜谷和明委員長

委員会メンバーの想いは大きく、常に新しい情報が得られるように、各社のDR 関連の新製品が発表されると同時に、その機器に関するデジタル・インプリメンテーションチャートを掲載し、それらの機器のセットアップメソッドの追加をして行く事を目指しています。また、DRハンドブックに掲載の「デジタルオーディオ用語集」のページも掲載しておりますので、いざと言うときの辞書代わりにアクセスしていただくと期待しています。

Q4: デジタルレコーディング市場は、今後どのような発展が予想されますか。

A4: デジタルレコーディングと言う括り方は正しいと思います。何故かと云いますと、今までは音だけの録音や編集のための機器と、映像の記録と編集のための機器と云うような分類ができていました。しかしデジタル技術の発達と機器の普及によって、映像を扱う機器と音声を扱う機器の区別をあまりする必要がなくなってきました。一般ユーザーにとっては機材が変わるための投資だけですみますが、業務用として使用する録音技術者に求められるのは、映像絡みの音声記録編集の知識とテクニックを備え、且つ制作プロデュースについての資質が求められると言われています。1台の機材またはシステムを前にして一人で全てが賄える力を持った人材の育成が課題となってきます。デジタル機器の発展は、録音編集の手順も変えることになると同時に、これらを扱うことに適したスペースと人材が要求されるようになるでしょう。この様にマルチメディア時代を生き抜く為の環境づくりが大きな課題となるでしょう。

Q5: 西暦2000年を迎えるに当たって、豊富をお聞かせ頂けますか

A5: 2000年、つまり世紀末であると同時に、嫌でも新世紀に突入するための試練を受けさせられている今日この頃ですが、良い意味でも悪い意味でもデジタル化による影響が出ています。今までのアナログ技術で構築し蓄積されていたものが、塗り替えざるをえなくなってしまいました。音声や映像のデジタル化に伴い通信回線もデジタル化が進み、多重化、高速化、低劣化圧縮技術等での伝送が可能となります。その結果、今まで地域的に独自の経営ができたので運営採算がとれていた事業についても、中央集中化で賄えるようになるため便利になる反面、各方面の地域社会の企業や生活形態も変わらざるをえなくなります。これが良いことか悪いことかは今のところ判断できませんが、「過ぎたるは及ばざるがごとし」の諺にあるように、何もかもデジタル化するのはどうも疑問です。アナログで十分なことまでもデジタルにする必要はないと思いますし、人間の生活を豊かにするためのデジタル化は大歓迎です。

会員名簿（五十音順）

あ

株式会社アートポスト
株式会社アイ・オー・データ機器
株式会社アイシックス
株式会社アイデックス
アイワ株式会社
赤井電機株式会社
アカソフト
株式会社アスキー
アップルコンピュータ株式会社

い

株式会社石橋楽器店
株式会社インターネット

え

株式会社エクシング
株式会社エム研

お

株式会社大阪有線放送社
有限会社オプ・インターラクティブ
株式会社音響総合研究所

か

カシオ計算機株式会社
株式会社カメオインタラクティブ
カモンミュージック株式会社
株式会社河合楽器製作所

き

ギガネットワークス株式会社
有限会社キュービックエナジー
株式会社キューブ

く

クラリオンソフト株式会社

こ

株式会社コナミコンピュータエンターテインメント東京
株式会社コルグ
コロムビア音響工業株式会社

さ

株式会社サンワード

し

有限会社シーカーズ
株式会社シーティーエー
株式会社シーミュージック
島村楽器株式会社
シャープ株式会社
株式会社J E U G I A
学校法人 尚美学園

す

株式会社ズーム
株式会社鈴木楽器製作所

せ

セイコーインスツルメンツ株式会社
株式会社セガ・ミュージック・ネットワークス

そ

ソニー株式会社

た

株式会社タイカン
株式会社第一興商
株式会社タイトー
大日本印刷株式会社
株式会社タムラ製作所

て

ティアック株式会社
TDK株式会社
株式会社電波新聞社

と

東映ビデオ株式会社
東京サウンド株式会社
凸版印刷株式会社

に

株式会社日光堂
ニフティ株式会社
学校法人日本工学院専門学校・
日本工学院八王子専門学校
日本コロムビア株式会社
日本シンセサイザープログラマー協会
日本電気株式会社
日本ビクター株式会社

は

パイオニア株式会社

ひ

株式会社P F U
ビクターテクニクスミュージック株式会社
ビクターレジャーシステム株式会社

ふ

株式会社フェイス
フォステクス株式会社
不二音響株式会社
富士通株式会社
株式会社ブライイトインターナショナル
株式会社プリマ楽器

へ

ベスタクス株式会社

ま

松下通信工業株式会社
松下電器産業株式会社
松下電工株式会社

み

有限会社ミュージカルプラン
株式会社ミュージック・シーオー・ジェーピー
株式会社ミュージックネットワーク
ミュージックノート株式会社

も

株式会社モリダイラ楽器

や

株式会社山野楽器
ヤマハ株式会社
財団法人ヤマハ音楽振興会
ヤマハミュージックトレーディング株式会社
株式会社ヤマハミュージックメディア

ら

株式会社ラグナヒルズ

り

株式会社リットーミュージック
株式会社リムショット

ろ

ローランド株式会社

わ

株式会社ワキタ

〈以上、会員会社87社〉

〈賛助会員〉

株式会社大阪村上楽器
株式会社楽販大阪
株式会社日本経済新聞社
有限会社博秀工業
株式会社ミュージックトレード
有限会社ミュレイディア
株式会社ラプラス

「マルチメディアテキスト 音楽・音響編 99」の発刊

本テキストは、マルチメディア製作者を対象に音楽・音響の技術の広範な分野を初歩的なものからより高度なものまで、実践を通して無理なく修得できるよう解説しています。テキストは、ハイブリッド仕様のCD-ROMで、初級編と上級編に分けられており、基本的な部分から実際の制作に必要な情報、最先端の情報まで幅広く含んでおり、今までのテキストのように文章で表現ができなかった部分もCD-ROMで実行することにより、より容易に理解できるよう構成されています。

MIDI検定

98年度試験問題集
掲載！

GM システム レベル2

仕様掲載！（英文）



頒布価格 ¥5,000（税別）
会員価格 ¥4,000

情報圧縮の基礎を解説

・ランレングス法・ハフマン法・JPEG・MPEG
・ADPCM・MP3・AAC・ドルビーデジタル（AC3）
・サウンド VQ（TWIN VQ）・リアルオーディオ

注目のインターフェイス
USB/IEEE 1394
解説

デモソフト満載！

AMEI ホームページ
一挙掲載！